



首都大学東京×スクラム釜石
釜石ラグビー2019
応援プロジェクト

第2回 「ワークショップ」 報告

2019/01/19



「第2回 ワークショップ」

1月19日（土）、いよいよ開幕が今年に迫る「ラグビーワールドカップ2019日本大会（以下、RWC）」に向けた首都大応援プロジェクトの「第2回 ワークショップ」を新日鐵住金代々木研修センターにて、実施しました。

今回のワークショップには、12名の学生が参加し、RWCを釜石で開催することの意義や首都大生が釜石で活動することの意義について考えました。

また、本プロジェクトを協働で進めている「NPO法人スクラム釜石」からは理事の早川弘治さんと三笠広介さんにお越しいただき、釜石市へのRWC誘致や復興に向けたこれまでの取組についてお話しいただきました。加えて、ゲスト講師として、向山昌利さんをお招きし、「ラグビーを通じた開発～W杯開催が東日本大震災からの復興にどう影響を及ぼすか～」についてお話しいただきました。

・釜石ラグビー2019応援プロジェクト

本プロジェクトでは、「NPO法人スクラム釜石」と協定を締結し、連携して、東日本大震災で被災した岩手県釜石市を応援します。

釜石市は「鉄とラグビーと魚の街」と言われており、特にラグビーは街の文化として根付いています。かつて、新日鐵釜石ラグビー部（現：釜石シーウェイブス）は、日本選手権7連覇の偉業を成し遂げました。

今回、スクラム釜石をはじめとした釜石ファン、ラグビーファンの思いが届き、RWC2019の会場の一つに「ラグビーの街 釜石」が選ばれました。

RWC2019の機運醸成と釜石の復興を目指す「首都大生には何が出来るか」を考えるとこのからスタートし、活動しています。

・第2回 ワークショップ

今回のワークショップでは、ボランティアセンターの学生コーディネーターも務めている学生がファシリテーターを担当しました。まず、3つのグループに分かれて、8月19日に開催された「釜石鶏住居復興スタジアムオープニングDAY」のボランティア活動の振り返りから行いました。それぞれが担当した役割の活動を共有し、そこから感じたことを出し合いました。その他、釜石の街並みを実際に見た印象や前日に聞いた地元の方のお話

などから感じたことなどを共有しました。

次に、それらを踏まえて、「首都大生だからこそできたこと」について、考えました。出された意見の一部を紹介します。

- 地元の人だけではなく、大学生という若い世代の人が入り、イベントと一緒に盛り上げることができた。
- 釜石と接点をもつ人が増えた。釜石の歩みや今を知る人が増えた。それにより、釜石について少しでも語れる人が増えた。
- 釜石の復興を東京など外から応援したい人がいるということ伝えられる。釜石の外側からも注目を得ていると地元の人が実感できるかも。

次に、事前に、地元の関係者からも首都大生の活動に対するフィードバックをいただいていたので、そのコメントを共有しました。

【RWC2019組織委員会 岩手・釜石地域支部 佐藤政弘 様】

- 地元のみでは難しい多数のマンプワーをいただけただけでなく、連携もすばらしく、「チーム首都大」としてのまとまりを感じ、当方の見落としのカバーをしていただき、オペレーションが非常に楽だった。
- 期待することとしては、釜石（田舎・古き良き日本？）の良さを知っていただき東京でPRしてほしい。もし良ければプライベートで遊びに来てほしい。「岩手釜石で自分たちが体験したいこと・楽しみたいこと」を提案いただくだけでも今後に繋がるレガシーになると思う。

【NPO法人スクラム釜石 代表 石山次郎 様】

- 首都大の皆さんが「東京から釜石にやってきてRWC釜石開催の力になる」ということは、「全国の人たちが協力しているという証の代表的な行動」として捉えており心強く感じている。
- RWCというイベントそのものに牽引されて釜石市民が盛り上がるのが「震災復興の一助」となると思う。その盛り上がりの一翼を首都大の皆さんに期待している。

これらのコメントを受けて、学生たちからは、「期待されていることと自分たちが考えていることがマッチしていて良かった」「思った以上に期待されていると感じたので、自分たちが発信していくことが大切だと感じた。周りの友だちに伝えてい

きたい」「自分たちも影響を与える立場なんだと気付いた」などの感想が聞かれました。学生たちは、現地の方からの声も踏まえて、自分たちが行った活動やこれから行う活動が、様々な重要な意味のある活動であることに気付き、自分たちの役割について考えることができたようです。

・復興とは何か

続いて、向山昌利さん（ラグビー元日本代表、流通経済大学スポーツ健康科学部 准教授）より、ご自身の研究も踏まえて、釜石市のRWC誘致をめぐる当時の経緯や地元の方々の想い、そして、私たちが釜石に関わり、活動していく際に大切な視点等について、お話しいただきました。RWCは誰にとって意義があるのか、ラグビーに関心がない人もいりし、未来のことより今が大変な人もいる中で、釜石の人、全員がRWCの開催を歓迎しているわけではないということをお話しいただき、一つの事実を全ての事実だと思わず、多面的に物事を考えることの重要性について、お話しいただきました。そして、そのことは、常に意識しつつも、迷いながら向き合い、行動していくことが大切だということを教えていただいたように思います。

最後に、「このプロジェクトを通して、自分・釜石・未来にとって、どうなっているとよいか」ということについて、一人ひとり宣言しました。「私たちが釜石で活動することの意義」や「復興とは何なのか」という難しいテーマについて考え、よりモヤモヤ感が深まったかもしれませんが、それでも、「RWCが終わったときには、釜石の方に少しでもやってよかったと思ってほしい、マイナス面を知りつつ、プラス面を見つめることができれば」という声も聞かれました。

今回学んだ視点を大切に、これからも“東京でもできること”、“今できること”から、取り組んでいきたいと思えます。



ゲスト講師の
向山昌利さん